

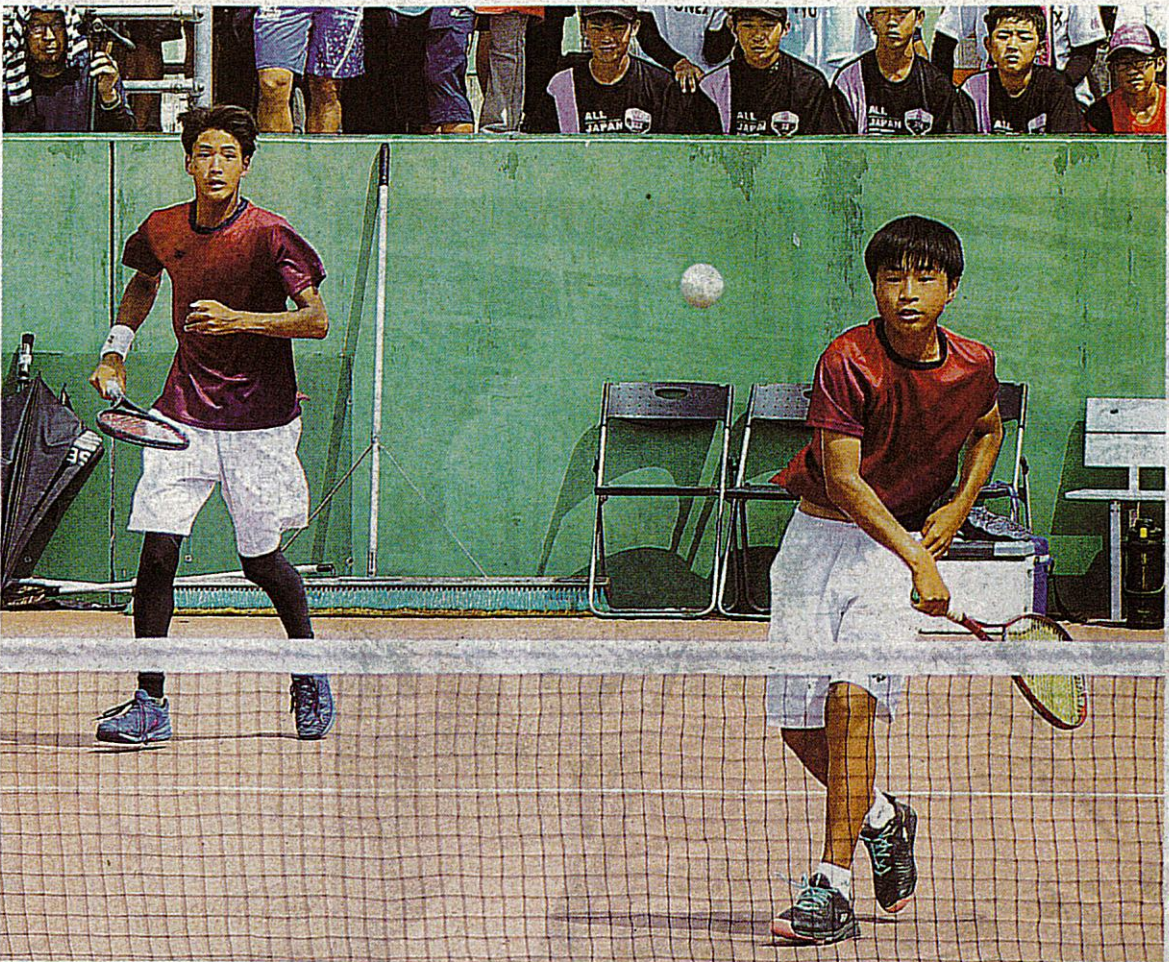
2023 四国全中

第6日

全国中学校体育大会第6日は22日、4県で8競技が行われ、ソフトテニス男子個人で明德義塾の福見優心・林寿季稀が3位入賞した。

福見・林(明德) 3位

福見・林はこの日の準々決勝を4-1で勝ち上がったものの、準決勝は大阪のペアに3-4で惜敗した。パドミントン男子単の松本蓮音(朝倉)は3回戦で敗れ8強入りを逃した。軟式野球は、2回戦で高知を破った東海大静岡翔洋が優勝した。23日の第7日は、本県で卓球が始まり、計8競技が行われる。



【男子個人準決勝】明德義塾の福見(左)と林が第6ゲームを4-2で奪い返し、ファイナルゲームに持ち込む(愛媛県今治市営スポーツパークテニスコート)

ソフトテニス
(愛媛県今治市営スポーツパークテニスコート)
▽男子個人準々決勝
福見優心 4-1 近藤冷音
林寿季稀 4-1 斎藤巨
(明德義塾) 静岡・静岡大島田
▽同準決勝
秋前 河丹 4-2
兵庫・姫谷 日(愛知) 朝合羽

福田喜大 4-3 福見優心
中村悠人 大阪・上野 4-3 林寿季稀
▽同決勝
秋前 谷田 4-3 中福村田

▽女子個人準決勝
竹野 山 4-1 阿部
田間 余良・奈 4-1 馬山島部
(大阪) 昇 4-3 伊瀬 良育 陽子園
日(愛知) 朝瀬 良育 陽子園
▽同決勝
竹野 田間 4-0 山中 口島

強気の攻めで劣勢挽回

2年連続団体3位だった明德男子が、今夏は個人で表彰台をつかんだ。3年の主将福見と2年林のペアが、過去最高だった昨年の16強を大幅に上

回る県勢初の3位。ファイナルで競り負けた2人は「表彰台は最低ラインだったので」と唇をかんだが、宮地監督は「歴史をつくってきた世代が、また違う景色を見せてくれた」とたたえた。

14歳以下日本代表の福見と小学時代に全国3位の実績を持つ林は昨年の全中後にペアを組んだ。3月の都道府県対抗全日本大会で3位に入った有力ペアだが、シングルス上位者も出てくる全中では苦戦の連続だった。

特に3回戦は、都道府県対抗2回戦で競り勝った東京のペアに3ゲームを連取される。ただ、経験豊富な2人は崖っぷちにも「1ゲーム取れば流れは変わる」と冷静。前衛の林がカットサーブで崩してボレー、後衛の福見もコーナーにびびり決める。ミスを恐れず、強気に攻めて初の8強入りをもぎ取った。

直前の練習試合で敗れていた大阪のペアとの準決勝もファイナルに持ち込んだが、ミスで連続失点し、最後は不運なネットインで勝負あり。「自分のミスで流れが変わった」と福見。林も「相手を最後まで取り切らないといけない」と、高みを目指しているからこそその悔しさが口をついた。

2人の戦いは全国上位だけが出場する今秋のJOC、天皇杯へと続く。「チームを勇気付けられるような戦いを」と福見。新チームを担う1、2年生9人へのエールも込め、全中で届かなかった日本一に挑戦する。(横田幸成)